

活動報告書

報告日付:2020年3月20日

事業ID:2017403614

事業名:埼玉県戸田市における第三の
居場所の運営(2年目)

団体名:Learning for All

事業完了日:2018年3月31日

1.事業内容

第三の居場所の運営(2年目)

(1)期間:2017年4月~2018年3月

(2)場所:埼玉県戸田市

(3)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完するため、拠点には専門スタッフを配置し、子ども達の生活習慣形成や非認知能力・学習意欲向上を図る。

2.事業内容詳細:

対象学校の児童生徒に放課後から夜21時までの間、安心して安全に過ごすことのできる居場所を提供し、宿題の補助や読み聞かせ、体験プログラムによって学習支援を行いながら、ニーズに応じて食事を提供し、歯磨き、入浴に関する生活習慣の形成をサポートした。また、学校や行政等各種関係団体とのケース会議に参加した他、保護者への相談援助業務を行うことによって子ども達が安心して過ごせる「第三の居場所」外における育成環境の醸成にも寄与した。

3.契約時事業目標の達成状況:

【助成契約書記載の目標】

- 1.拠点利用児童の募集
- 2.児童への居場所・読み聞かせ、学習支援・食事の提供
- 3.保護者、地域、行政との関係構築
- 4.全国展開に耐える事業モデルの構築

【目標の達成状況】

1.行政と協力して拠点利用児童の募集を行った。あわせて学校、公立学童、町会の方々、児童委員や民生委員の方々にもご協力いただき、情報収集の上、各世帯ごとに登録につながりやすい方法を模索した。団体のソーシャルワーカーによる直接アウトリーチも実施した。

2.全開所日において実施した。それぞれの子どもの好きなことや得意なことを生かしたコンテンツ作りに注力し、料理体験や様々な工作などを行った。また、保護者を巻き込んだ季節のイベント等を実施し、拠点での子どもの様子を保護者にしっかりと伝えることを意識して拠点運営を行った。必要な世帯には、保護者も一緒に夕食を食べてもらい、親子間の時間を創出するなど、世帯に踏み込んだ支援を行った。

3.下記の通り、それぞれの関係を強化した。

- 保護者との関係性:日々のお迎え時のコミュニケーションを非常に重要視し、毎日必ず子どもの様子の報告、褒めて欲しいポイントなどを共有した。また、上記のイベントで保護者の方に準備を手伝っていただくなどし、他愛ない会話がよく生まれるようにした。結果的に、通っていない兄弟の

相談や、パートナーとの関係の相談など、多くのご相談をいただく関係になった。

- 地域との関係性: 拠点近隣の公園に子どもが多く集まるようになり、地域の子どもも一緒にスタッフが遊ぶ光景が当たり前となった。それを見て、町会の皆さんからも大きく信用を得られるようになった。また、町会の運動会などのイベント、学校のイベントにも積極的にスタッフとしてのお手伝いを申し出て、参加させていただくことで、さらに信頼関係を深めることができた。
- 行政との関係性: 定期的な情報共有は継続して実施。それ以外には、個別ケースを通して、複数課との連携を実施した。行政を中心に、学校、警察、民間の放課後デイサービス等と合同でケースカンファレンスを開催することもできた。

4.全国の見本となる運営の質を保てるよう、スタッフのスキルアップ等にも注力を始めた。専門知識を増やすために、社会福祉士や心理士、発達心理学の専門家の研修を受けたり、勉強会を実施したりと、第三の居場所運営スタッフに必要なスキルやマインドを整理した。その他、他拠点の視察等では、積極的に実体験を伝えられるように意識した。